

250920-土-夜_神聖の眼で世界を見つめる日_詳細な内容

【2025/09/20 夜のメール前文】

5月から8月まで4ヶ月間、『神聖の眼を養う日』というタイトルのプログラムを四週に一回おこなってまいりました。それは、今年4月に入って以降、【神聖自覚 ～ 神聖を自覚して生きること】のテーマが打ち出されたことに連動して、私達ひとりひとりが肉体身に在りながら、“神聖の視座に立った意識で自他や世界を見つめること”が、祈りのメンバーひとりひとりの課題として浮かび上がったことを受けてのプログラムでした。

私達は今年の上半期を、【神聖自覚 ～ 神聖を自覚して生きること】のテーマに沿って、神聖を自覚した意識を自らの意識として、意識的に【言葉・想念・行為と呼吸を神聖にチューニングしたものとする練習】をおこないながら過ごしてまいりました。

その結果、8月23日(土)夜の『神聖の眼を養う日』のプログラムをとおして、私達が“神聖の眼を養う段階の終わり”に差し掛かっていることを自覚するに至りました。

私達は、気が付かない間にすでに、“神聖の眼を持つ者”として生きる段階に入りました。「いや、私はまだその段階に達していない」とお思いの方も、すでに“神聖の世界に生きる者”としての余生を過ごされています。

なぜそう言い切れるかと申しますと、今年4月に打ち出された【神聖自覚】の意味するところは、「顕在意識でハッキリと神聖を自覚することがすべてではない」からです。

どういうことかと申しますと、肉体意識で神聖を自覚して(思い出して)いなくとも、その生き様に神聖を顕現していらっしゃる方は、神聖を自覚して(顕現して)生きているからです。

大切なことは、そうなってもいないのに、ムリムリに「私は神聖の存在だ」と思い込もうとする無駄な努力に時間を費やすことではなく、今この瞬間の自分に神聖の言葉・想念・行為を表現して生きていることだからです。

私達は皆、もうすでに神聖の言葉・想念・行為を顕わして生きているます。日常生活を振り返ってみてください。私達の心の中や肉体の細胞さんたちは、いつでも世界平和の祈りが鳴り響かせています。

何があっても無くても、忙しいときもそうでないときも、健康なときも病めるときも、暑い日も寒い日も、朝に昼に夜に真夜中に明け方に、起きていても寝ていても、私達が思い語り表わすことは、常に「世界の平和」や「人類の神聖の甦り」を志向しての想念・言動・行為であります。

そのような人々こそ、神聖を自覚して生きている神聖人類です。そのような方々こそ、旧い価値観の時代に幕を引いて、進化した宇宙の星々と交流する段階にある『神聖文明の価値観』を地球に降ろし展開する人々であるといえます。

今回から『神聖の眼を養う日』というプログラムは、『神聖の眼で世界を見つめる日』にアップグレードしておこないます。

それは、神聖の眼を養う段階が終わり、神聖の眼で世界を見つめることが当然の世界の始まっていることを意味しています。

私達はもうすでに、日常生活のとっさの場面で、突発的に起こった出来事や自他の感情想念の動きに対して、何を見ても聞いても体験しても、揺るぎない神聖の視座から俯瞰できる意識を自らのものとしています。

これからの数ヶ月は、地球界に何が起ころうと、神聖意識を持って世界を見つめ、徹頭徹尾すべてに神聖を認めてまいります。（そのためにはまず初めに、私達自身が自らの神聖に対して0.0000001%の疑いも持たず、自らが神聖の存在であることを完全認定していることが大前提です）

当日のプログラム詳細

【はじめの話】

斉藤：皆さま、こんばんは。土曜日夜の『神聖の眼で世界を見つめる日』のプログラムを始めます。今回からは、前回までの名称『神聖の眼を養う日』を、『神聖の眼で世界を見つめる日』に変えて、心新たに『神聖が顕現した時間』を共有してまいりますので、よろしくお願いいたします。

「世界を見つめる」と聞きますと、皆様は何をイメージされますでしょうか？私は「世界」という言葉を発するときには、肉体の五感で認識しうるこの世の世界のみならず、この地球界にまつわるあらゆる意識階層の人々や、

波動の異なる様々な次元に展開される無数の天地を思い浮かべます。

私達が世界を見つめる『神聖の眼』は、そのように肉体界だけに張り付いて見る狭い世界ばかりではなく、自らの意識の広がりに応じて、瞬時にたくさんの世界を認識できる眼であります。

皆様もご存じのとおり、神聖の眼は肉体の眼ではありません。幽体の眼、霊体の眼、神体の眼、直霊の眼を統合した眼で、同時存在するあらゆる世界を見通す眼であります。

私達は、『消えてゆく姿で世界平和の祈り』『人間と真実の生き方』『統一行』『世界各国語による世界各国の平和の祈り』『地球世界感謝行』『光明思想徹底行』『呼吸法の唱名』、そして『神聖復活の印』をはじめとした各種の印をおこないつづけた結果、守護霊・守護神様方をはじめ、様々な神々や宇宙天使の方々のご援助を得て、神聖の眼を自らの眼として生きる段階にまで私達自身を育て上げてまいりました。

しかし、そうした意識進化の道のりは、まだまだこれから先も続きます。人間は無限に進歩できる生命体です。自らが諦めて道を閉ざしたり、満足して歩みを止めたりさえしなければ、私達は今後も、益々自らを磨き高め上げ、神としての境地を深め、高め、広げてゆくことが出来ます。

土曜日の夜のプログラムの時間は、そうした一見するとほかの人々と共有しづらい“心境の世界の感覚”をできるだけ言葉に表わし、祈りや印をとおして、ご参加の皆様全員が互いの持っている意識波動を共有し、分け与え合い、互いの意識を深め、高め、広げてゆくための時間です。

本日は、波動レベルで見ますと“新たな取り組み”にはなりますが、これまでと同様に、一人一人の持ち味を波動として出し合って、互いの長所を混ぜ合い、今日ここにおられる皆様の神聖の眼が統合した“より大いなる神聖の眼”を共有し合える時間にしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは時間になりましたので、初めに世界平和の祈りを日本語と英語で行います。

★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★

1. 世界平和の祈り

斉藤：それでは始めます。

世界人類が平和でありますように。

日本が平和でありますように。

私達の天命が完うされますように。

守護霊様、ありがとうございます。守護神様、ありがとうございます。

May peace prevail on Earth.

May peace be in our homes and countries.

May our missions be accomplished.

We thank you, Guardian Deities and Guardian Spirits.

★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★

2. 神聖の眼についての認識を深める時間

斉藤：はい、ありがとうございます。それでは、神聖の眼についての認識を深める時間を取ってまいります。

「神聖の眼がどういう眼であるか？」については、皆様それぞれに、ご自身の体験をとおした認識を持たれていると思います。また、私の認識については、木曜日に送信した本日の案内メールのなかに書かせていただきました。

本日は、まず初めに、スライドに表示された文字を読み上げる形で、神聖の眼についての認識を深めてまいりますので、画面を見ながら、一緒に言葉を読み上げてみてください。

私達に備わる神聖の眼は、宇宙を見通す眼力を持つ。

また、この神聖の眼は、何ものにも犯されることがない。

一度開眼したこの神聖の眼は、宇宙神と全(まった)き一体化を果たすそのときまで、この眼に映ずる範囲が広がり、深まり、高まりつづけてゆく。

神聖の眼をとおして観れば私達は、すべてのなかに息づいていた。

私達はすべてのすべてであり、物質と精神をあらしめるパワーそのものであった。

神聖の眼をとおして観れば、我々は宇宙大生命を内包した宇宙神の分身であった。

ゆえに私達は全員、この星の未来を輝かし、すべてを生かす責任がある。

今の地球がどのように見えようとも、すべては必ず神聖を顕わすに至る。

地球世界に大調和世界を完成させることこそが、私達皆に共通する大天命だ。

私達の神聖の眼は、すべてに宇宙根源から発した神聖波動を観ている。

私達に甦った神聖の眼による認識は、強力な運命創造のパワーである。

ゆえに私達の神聖なる認識は、あらゆる迷妄を晴れ渡らせ、苦悩を消滅せしむる。

神聖の光そのものとしての私達は、すべてを生かし育むパワーである。

その力が内在するからこそ、私達の神聖の眼は開いたのである。

自らの生き様をとおし、今度は私達が人類を感化してゆく。

地球の平和は、人類の神聖復活の如何にかかっている。

世界人類よ、平和であれ。

それこそが、いのちの源の声である。

★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★

3. 神聖の眼でおこなう世界各地の自然への感謝

渡久地：齊藤さん、ありがとうございました。ここからは、神聖の眼で地球世界を見つめて、大自然や生きとし生けるものへの感謝を捧げる時間にしてまいります。

1992 年の 3 月に、印を使わない地球世界感謝行が始まった当初は、大自然や

生きとし生けるものへ感謝する私達の意識のあり方は、肉体人間としての見方であり、感謝でありました。

あれから 33 年経った今、私達は神聖の視座に立った意識をもって、ありとしあらゆるものに感謝の光を送るまでに至りました。

ここまで私達を育ててくださった守護霊様・守護神様・神界の神々様・宇宙天使の皆様方への感謝の心を内に秘めて、これより新たな気持ちで世界各地の自然や生物への感謝をしてまいります。

ここからは、スライドの文字を読み上げて、神聖復活の印を組んでまいります。それでは始めます。

3-1. 北中米の大自然への祈り

渡久地：私達は、北中米の大自然と、神聖によって繋がりに合っています。

水、空気、風、大地、山、生き物など、北中米のすべての大自然に、心からの感謝を捧げるとともに、宇宙神の光を送ります。

<神聖復活の印を一回> (※10 秒間、お祈りする)

行天：はい、ありがとうございます。

★☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆

3-2. 南米の大自然への祈り

行天：次は、南米の大自然への祈りです。

渡久地：私達は、南米の大自然と、神聖によって繋がりに合っています。

水、空気、風、大地、山、生き物など、南米のすべての大自然に、心からの感謝を捧げるとともに、宇宙神の光を送ります。

<神聖復活の印を一回> (※10 秒間、お祈りする)

行天：はい、ありがとうございます。

★☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆

3-3. ヨーロッパの大自然への祈り

行天：次は、ヨーロッパの大自然への祈りです。はじめに、神聖復活の印を一回組みます。

渡久地：私達は、ヨーロッパの大自然と、神聖によって繋がっています。

水、空気、風、大地、山、生き物など、ヨーロッパのすべての大自然に、心からの感謝を捧げるとともに、宇宙神の光を送ります。

<神聖復活の印を一回>（※10 秒間、お祈りする）

行天：はい、ありがとうございます。

★☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆

3-4. 中東の大自然への祈り

行天：次は、中東の大自然への祈りです。はじめに、神聖復活の印を一回組みます。

渡久地：私達は、中東の大自然と、神聖によって繋がっています。

水、空気、風、大地、山、生き物など、中東のすべての大自然に、心からの感謝を捧げるとともに、宇宙神の光を送ります。

<神聖復活の印を一回>（※10 秒間、お祈りする）

行天：はい、ありがとうございます。

★☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆

3-5. アフリカの大自然への祈り

行天：次は、アフリカの大自然への祈りです。はじめに、神聖復活の印を一回組みます。

渡久地：私達は、アフリカの大自然と、神聖によって繋がっています。

水、空気、風、大地、山、生き物など、アフリカのすべての大自然に、心からの感謝を捧げるとともに、宇宙神の光を送ります。

<神聖復活の印を一回>（※10 秒間、お祈りする）

行天：はい、ありがとうございます。

★☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆

3-6. アジアの大自然への祈り

行天：次は、アジアの大自然への祈りです。はじめに、神聖復活の印を一回組みます。

渡久地：私達は、アジアの大自然と、神聖によって繋がっています。

水、空気、風、大地、山、生き物など、アジアのすべての大自然に、心からの感謝を捧げるとともに、宇宙神の光を送ります。

<神聖復活の印を一回>（※10 秒間、お祈りする）

行天：はい、ありがとうございます。

★☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆

3-7. オセアニアの大自然への祈り

行天：次は、オセアニアの大自然への祈りです。はじめに、神聖復活の印を一回組みます。

渡久地：私達は、オセアニアの大自然と、神聖によって繋がっています。

水、空気、風、大地、山、生き物など、オセアニアのすべての大自然に、心からの感謝を捧げるとともに、宇宙神の光を送ります。

<神聖復活の印を一回>（※10 秒間、お祈りする）

行天：はい、ありがとうございます。

★☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆

3-8. その他のすべての地域の大自然への祈り

行天：次は、その他のすべての地域の大自然への祈りです。はじめに、神聖復活の印を一回組みます。

渡久地：私達は、その他のすべての地域の大自然と、神聖によって繋がっています。

水、空気、風、大地、山、生き物など、その他のすべての地域の大自然に、心からの感謝を捧げるとともに、宇宙神の光を送ります。

<神聖復活の印を一回> (※10 秒間、お祈りする)

行天：はい、ありがとうございます。



4. 人類神聖復活の祈り

行天：それでは、人類の神聖復活へ向けて、心を込めて神聖復活の印を 1 回組みます。印を組み終わりましたら、そのまま目を閉じてお祈りします。

世界人類が平和でありますように。

人類の神聖復活、大成就。

世界人類が平和でありますように。

人類の神聖復活、大成就。

<神聖復活の印を一回> (※14 秒間、お祈りする)

行天：はい、ありがとうございます。

渡久地：ありがとうございました。

斉藤：渡久地さん、ありがとうございました。

以上